

ソフトウェア・エンジニアリング 成果の普及展開

SEC システムグループ リーダー

山下 博之

信頼性の高いソフトウェアを効率よく開発するための手法の普及展開に向け、ソフトウェア・エンジニアリング成果^{※1}に関する首都圏でのセミナー主催、地域開催セミナーへの講師派遣、イベント出展等を行った。ここでは、幾つかのトピックスを述べる。

1 非機能要求グレード[※]（地方公共団体版）の作成支援

地方公共団体での情報システム調達において、非機能要求を漏れなく明確化し、効率よくシステム調達仕様を作成するために特化した、「非機能要求グレード」のカスタマイズ版が、財団法人地方自治情報センター（現、地方公共団体情報システム機構）により作成・公開された^{※2}。オリジナル版の非機能要求項目（全 236 項目）から目的実現に必要な 76 項目に集約（一部項目追加も実施）されており、この過程で、IPA/SEC は助言と協力を行った。

2 SPEAK-IPA 準アセッサ育成コースの開講

プロセス改善推進者育成の促進を目的に、「SPEAK-

IPA」に規定されているソフトウェア開発プロセスのアセスメント能力を身に付けることができるセミナーコース「SPEAK-IPA 準アセッサ育成セミナー」を開始した。演習を主体とする 3 回・6 日間のコースであり、当該年度は東京と名古屋で開講し、計 25 名が修了した^{※3}。

3 共通フレーム 2013 活用の利便性向上

「共通フレーム 2013」の活用時によく利用するプロセス一覧等の図表類を、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（表示 - 継承 2.1 日本）の下に、加工できる形式で公開した^{※4}。

【脚注】

- ※1 ソフトウェア開発データ白書、定量的プロジェクト管理ツール、共通フレーム 2013、プロセス改善手法（SPEAK-IPA、SPINA³CH 自律改善メソッド）、非機能要求グレード、アジャイル型開発プラクティス活用リファレンスガイド、高回復力システム基盤導入ガイド、GQM+Strategies、高品質な組込みソフトウェア開発標準リファレンス（ESxR Series）。GQM+Strategies とは、組織ゴールからその実現のための戦略の整合性を体系立てて見える化し、関係者間での合意形成を図る方法論。
- ※2 <http://www.ipa.go.jp/sec/info/20140325.html>
- ※3 <http://www.ipa.go.jp/sec/info/20140327.html>
- ※4 <http://www.ipa.go.jp/sec/publish/tn12-006.html>